

ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤 ナリア WDG	取扱メーカー： BASF 原体メーカー： BASF, BASF
成分： ピラクロストロビン〔ストロビルリン系〕……………6.8% ボスカリド〔カルボキサミド系〕……………13.6%	性状： 褐色水和性細粒及び微粒 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- 異なる2成分を混合することで、幅広い病害を防除できる。
- 残効性に優れるので、広めの散布間隔でも防除でき、梅雨期でもゆとりのある防除体系が組める。
- 果実への汚れが少なく、収穫前日まで使用できるので、早生種と晩生種との混植園でも使用できる。
- 茶の主要病害に優れた効果を示す。
- 残効性に優れる。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加える。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用する。
- なしに使用する場合、開花始めから落花20日頃までの散布は、葉に薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。
- なし品種のルレクチエには果実に薬害が生じるおそれがあるので袋掛け後に使用する。
- ぶどうに使用の場合は、果粉溶脱のおそれがあるので、大豆大以降の使用は注意する。

- ぶどう品種のピオーネには葉及び果実に、藤稔、サニールージュ、シャルドネには葉に薬害を生じるおそれがあるので、周辺にある場合にはかからないよう注意する。
- かきに使用する場合、浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると、薬害が生じるおそれがあるので、さける。
- 共通注意事項8、適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 蚕に対して影響があるので、付近に桑畑がある時はかからないように注意して散布する。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
- 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用する。
- カブレやすい体質の人は取り扱いに注意する。
- 魚類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。



【適用と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	ピラクロストロ ピンを含む農薬 の総使用回数	ボスカリドを 含む農薬の 総使用回数	
りんご	斑点落葉病 黒星病 褐斑病 炭疽病 すす点病 すす斑病 輪紋病 黒点病 うどんこ病 腐らん病	2000 倍	200 ～ 700 ℓ	前日まで	3 回以内	散布	3 回以内	3 回以内	
	なし								黒斑病 黒星病 輪紋病 うどんこ病 炭疽病
									おうとう
もも	灰星病 ホモブシス腐敗病 黒星病 果実赤点病 すすかび病 うどんこ病 炭疽病				2 回以内		2 回以内	2 回以内	
	ネクタリン								灰星病 ホモブシス腐敗病 黒星病 うどんこ病 炭疽病
かき	落葉病 炭疽病 うどんこ病				2000～ 3000 倍		7 日前 まで	3 回以内	3 回以内
大粒種 ぶどう	晩腐病	2000 倍							
かんきつ	そうか病 黒点病 灰色かび病	2000～ 2500 倍							
	炭疽病（さび果）	2000 倍		7 日前 まで	2 回以内	2 回以内		2 回以内	
小粒核果類 (うめ,すもも を除く)	黒星病								
うめ	黒星病 環紋葉枯病 すす斑病			2000 倍	前日まで				
	すもも								

作物名	適用病害名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	ピラクロストロ ビンを含む農薬 の総使用回数	ボスカリドを 含む農薬の 総使用回数
キウイフルーツ	灰色かび病 すす斑病 果実軟腐病	2000 倍	200 ～ 700 ℓ	前日まで	2 回以内	散布	2 回以内	2 回以内
茶	炭疽病 輪斑病 新梢枯死症 もち病 網もち病 褐色円星病 黒葉腐病 赤葉枯病		200 ～ 400 ℓ	摘採 7 日前 まで				
ホ ッ プ	べと病 うどんこ病		200 ～ 700 ℓ	14 日前 まで	3 回以内		3 回以内	3 回以内